

●サハリンI、サハリンII開発とは

サハリンI・IIのどちらの開発鉱区もサハリン北東部に位置する。サハリンIの第1期工事は、2005年の生産開始を目指し、ロシア本土デカストリまで島を横断する原油パイプラインを敷設する計画である(図中A)。また、日本に向けた天然ガスパイプラインのルート検討が大詰めを迎えている(図中B)。サハリンIIは、ビルトン・アストフスコエ鉱区を開発する第1期工事が既に完了しており、モリックパックと呼ばれる海上掘削施設1基を設置、1999年より夏季の間のみタンカーで原油が輸送されている。そして現在、原油の通年生産およびガス生産を目指す第2期工事の本格化を目前に控えている。第2期工事では、更に2基の海上掘削施設の設定、陸地までの海底パイプラインおよびサハリンを北から南へ縦断する全長約800kmの陸上パイプラインの敷設、南部プリゴロドノエに液化天然ガス(LNG)プラントと原油輸出ターミナルの建設が計画されている。

●サハリン開発と日本のかかわり

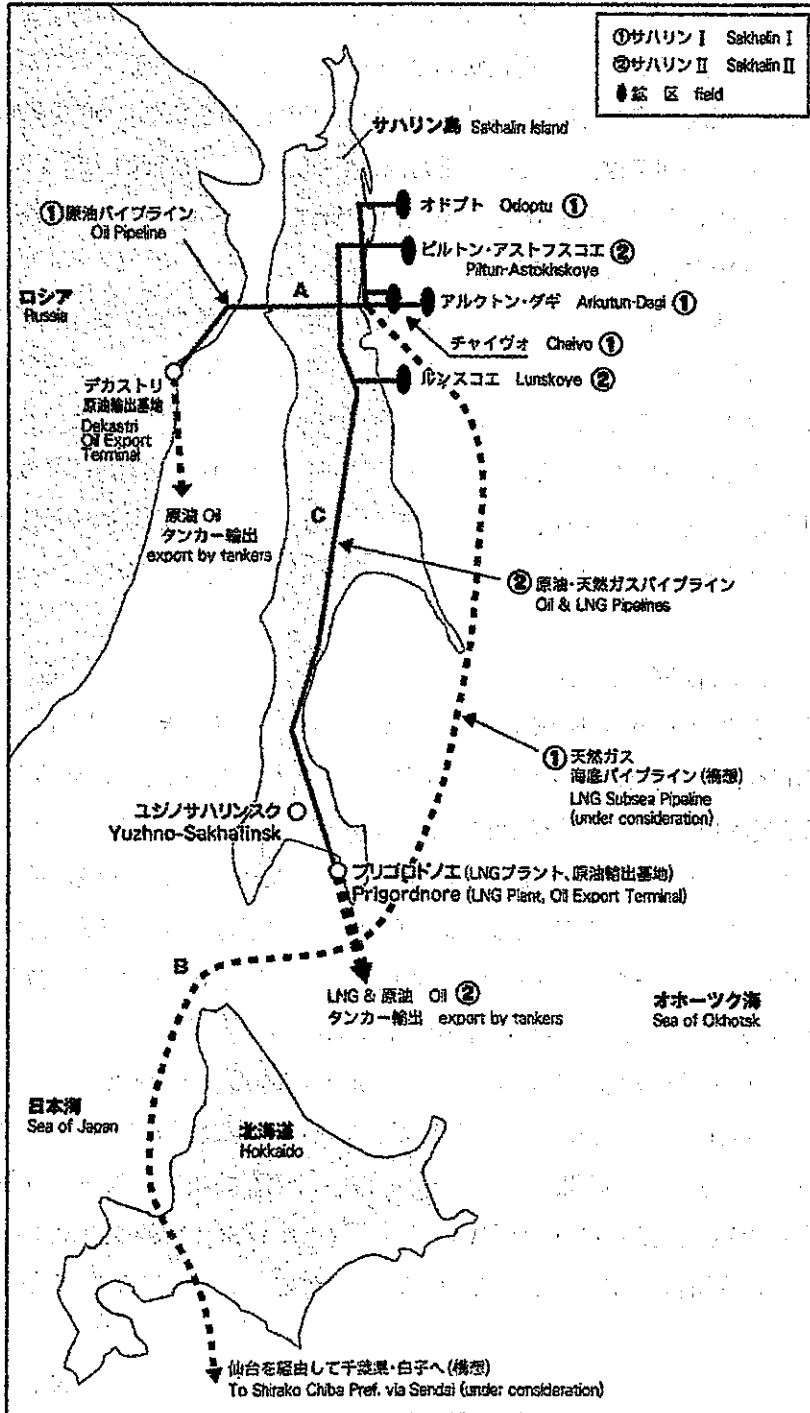
日本は、サハリンI・II事業に三つの点からかかわっている。一つ目は日本企業の投資。石油公団や伊藤忠商事、丸紅などを含む日本企業が、サハリン石油ガス開発(株)(通称 SODECO)という合併会社を設立した。サハリンIは、エクソンの子会社のエクソンネフチェガスが事業主体であるが、開発においてはこの合併会社がエクソンと同率の30%出資をしている。サハリンIIは、ロイヤルダッチシェルと三井物産、三菱商事が出資するサハリンエナジー・インベストメント社(以下 SEIC)により進められている。また、今年に入って、LNGプラントの建設などを次々と日本企業が受注している。

二つ目は、生産予定の天然ガスの主な購買先が日本となっている点である。サハリンIIのLNGは、既に東京電力と東京ガスが2007年からの購買合意を締結しており、九州電力もこれに続いた。サハリンIも日本を主要なターゲットとしている。

さらに三つ目は、サハリンI・IIへの公的資金を使った融資である。これは、政府系金融機関である国際協力銀行(JBIC)を通じたもので、サハリンII第1期工事には、1997年12月に約130億円、サハリンIはSODECOに対して2002年3月に1,100億円という巨額の融資が決定された。さらにJBICは、サハリンII第2期工事についても6月上旬に融資要請を受け、現在環境審査中である。また、日本が第二の拠出国である欧州復興開発銀行も同様にサハリンIIへの融資を行っている。

また、開発地域は希少野生生物の重要な生息地となっており、IUCN(国際自然保護連合)により絶滅危惧種とされる、西太平洋コクジラ(推定生息数100頭以下)やオオワシの餌場や営巣地への影響は免れない。しかし、SEICの環境影響評価(EIA/2002年9月、2003年3月)には、オオワシのような希少な生物でさえも正確に実態や影響が記述されていないことが、猛禽類の専門家やサハリンと北海道でオオワシ調査に携わっている専門家から指摘された。それに対しSEICは、全てのデータが反映された完全なEIAを、2003年12月に提出予定であると回答した。だが、本来EIAとは、開発前

サハリンI・II石油・天然ガス開発事業 Sakhalin I・II Oil and Natural Gas Development Project



「北海道とロシア極東」より NI-Japan 作成

の環境の現状調査、開発による影響、緩和策などの検討を行うもので、EIA の結果によっては計画変更の必要性も出てくる。この様な EIA の本来の目的を考えれば、事業を進行しながら EIA に新たに報告を追加していくというのは理解しがたい。

さらには、ロシア、サハリン州、住民の受益の面からも問題が指摘される。石油開発は、生産分与協定に基づいて行われている。生産分与協定のもとでは、企業側の利益に応じて、ロシア政府への利益分配が行われる。しかし現在のところ、正当な利益をロシアが受けられるようになる時期は明確でない。また、サハリン I・II では、石油企業は地方税などの税金を免除されている。2000 年～2001 年にかけてロシア連邦監査評議会(Audit Chamber)が行った調査では、サハリン II はサハリンに恩恵をもたらしてこなかった、と報告されている。

また、人々の暮らしに直結する問題として、サハリンの深刻な電力不足がある。人々は、すぐ近くに存在する将来的な天然ガス供給源に期待を寄せたが、SEIC は、そのガスをロシアの国内価格ではなく、国際価格でサハリンの市民に提供する考えで、多くの市民が開発の恩恵を受けることができない可能性がある。そして、サハリン北東部沿岸では、この地域でかつて見られないようなニシンの大量死、魚体の小型化、漁獲量の減少が確認されている。これは、事業開始前には見られなかった現象で、更なる事業計画を前に、魚を糧とする先住民や漁業関係者は不安を隠せない。

●取り組みとJBIC の新ガイドライン

これらの問題に取り組むため、環境 NGO は国際的なネットワークを築き、各国で企業、融資機関、政府への働きかけを行ってきた。ロシアでは、いくつか裁判も起こされてきた。その結果サハリン I では、一切の掘削汚泥は海洋への投棄を禁止されるなど、いくつかの改善もあった。しかし、多くの問題は未だ改善されず、平行線をたどったままである。また、JBIC は 10 月より新環境社会配慮ガイドラインを施行した。このガイドラインは、施行日以降融資要請があったものが対象となるが、サハリン II 第 2 期工事については部分適用されることになっている。この中には、影響の回避の優先的な検討や協議のあり方に関して、重要な点が盛り込まれており、その運用は注目すべきところである。

日本企業が関わり、日本の公的資金が利用され、さらに日本の市民がその恩恵を受けることになるサハリン開発。これまで石油開発は、世界の多くの場所で様々な犠牲を生んできた。石油開発を行う以上、何らかの環境社会的な影響は引き起こされる。しかし、一度壊された自然環境や住民の生活は、もう二度と完全に再生することはない。住民や漁業者、専門家、NGO などの意見を事業に取り入れながら、透明性や説明責任を果たしつつ、最善の環境配慮・社会配慮がなされた上で計画が進められることが必要である。

(N I 11月号より)

*サハリンに生息する希少種・オオワシの写真展を企画中。詳細は決まり次第お知らせします。

ニュース・タイでインターン研修

財団法人 福岡国際交流協会の「福岡国際協力人材育成」助成事業により、FNA から運営委員・寺嶋 悠さんをタイに派遣し、研修を行っていますので、その概要をご紹介します。2月に報告会を開催する予定です。詳細が決まりましたらお知らせします。

これは、福岡地域で国際協力活動を行うNGOの組織力強化のための人材育成を支援するための、NGOを対象とした助成事業です。インターンシップ事業としての助成で、事業名は次の通り。

「東南アジア河川ネットワーク (SEARIN) における国際会議企画・開催及び日常業務を通しての、NGO組織運営、提言手法ならびに社会調査手法を学ぶインターンシップ事業 (タイ)」

寺嶋さんは既に 10 月 15 日にタイへ赴いており、帰国は 2004 年 1 月末の予定です。

研修先の SEARIN とは、東南アジア河川ネットワーク (South East Asia Rivers Network) (<http://www.searin.org/>)、チェンマイに事務局を置く NGO です。タイでダム建設に反対する住民組織を援助、ネットワークし、政府へのアドボカシー活動をしています。またバクムン・ダムの現地には SEARIN から常駐スタッフが派遣されています。国際河川ネットワーク (IRN) とは協働関係にあつて、世界ダム委員会 (WCD) にも積極的に関与、『WCD 市民ガイド』のタイ語版を出版したりもしています。

また、今回の目的のひとつである国際会議とは、「命のための川：第 2 回ダム影響住民とその支援者の国際会議」Rivers for Life: The 2nd International Meeting of Dam-Affected People and their Allies (<http://www.irn.org/riversforlife/>) で、内容は以下の通り。

日程：2003 年 11 月 28 日から 12 月 3 日まで

会場：タイ ラーシー・サライ・ダムと戦っている住民共同体によってムーン川の堤防際に建てられた抵抗村

目的：大型ダムと戦う人々の運動を強くすること。

1. ダム影響住民およびダム批判者の間の連帯を築くこと。特にアフリカの市民社会の参加に注目します。
2. ブラジルのコルティバにて 1997 年に開催された第 1 回国際会議から現在までの国際反ダム運動の評価。WCD (世界ダム委員会) プロセスと、反ダム運動の長所と弱点に重点を置きます。
3. 異なった地域や異なったレベルでは異なる戦略が必要であるという認識の下に、経験を分かち合い、戦略を立てます。優先的な戦略として、水計画とエネルギー計画の代替案評価、ダム撤去、賠償、河川の復元と合法的な代替案が含まれています。
4. ネットワークのための構造についての議論と、国際的なダム反対運動のフォローアップの仕組みの議論

(この国際会議は、国際議事運営委員会の協力の元、SEARIN と国際河川ネットワーク (IRN) が主催。国際議事運営委員会は、世界各地でダム問題に取り組んでいる NGO の協力による運営委員会。)

なお、寺嶋さんはこの会議で「川辺川ダム」を取り上げ、参加者に日本のダム問題を訴えました。

イベント参加報告

FNA は 11 月に行われました 3 つのイベントに参加しました。今年はボランティアネットでお手伝いスタッフを募集したところ、たくさんの方にご協力いただきました。報告と、ボランティアの方からいただいた感想です。

○ハートフルフェスタ福岡 2003 -11月8日(土)・9日(日) 会場:博多リバレイン

参加 35 団体 内容:ブースでの活動紹介と物品販売

「先日、参加させて頂いたボランティアは、たった一日半と短い時間でしたが、私にとってとても有意義なものでした。それは FNA を始めとする様々な NGO の活動を、一部分ではありますが知り得たからです。実際に現実にある問題に積極的に関心に向け、真摯に取り組み、働きかけておられることを知り、私もそれらの問題に対し学んでいくと同時に、知ったからには何らかの形で社会に発信できるような人間になりたいと考えております。今後、学習会に是非参加させて頂きたいと思っておりますので、よろしくお願いします。(K. M)」

○地球市民どんたく 2003 -11月15日(土)・16日(日) 会場:ソラリアプラザ 1階「ゼファ」

参加 32 団体 内容:ステージでの活動紹介、ブースでの活動紹介と物品販売

「先日は貴重な体験をさせていただきましてありがとうございました。初めてのボランティア参加にドキドキでしたが、FNA のブロックで小物を売ったりパンフを配ったり、他の NGO 団体の方たちのステージで PR されているお話を伺ったりとあっという間の楽しい時間でした。

私にとって FNA の活動がどのようにされているのか解ったことがこのボランティアに参加させていただいた一番の収穫でした。貴重な体験ありがとうございました。また時間を見つけてぜひ参加したいと思います。(Y. K)」

○あすばるフェスタ 2003 -11月22日(土)・23日(祝) 会場:クローバープラザ

参加 81 団体 内容:1 室での活動紹介と物品販売

「まともなことは言えないんですけど、販売の仕事は難しいと思いました。その商品の知識がないんでお客さんと会話をしててもその人の反応があまりないんで「あっ。自分の話には説得力がないんだな」と、実感しました。上辺だけの知識じゃお客さんには伝わりませんね。なんか関係ない話になりましたけど率直な感想です。(T. I)」

今年は何のイベントでも例年以上に活動内容に関心を持ってくださる方が多かったように思います。イベントに参加することで、これまでご縁がなかった人と知り合うきっかけができることがなにより大きな成果です。お手伝いして下さったみなさまに心からお礼申し上げます。(K. K)

FNA 日誌

2003年10月から12月の活動紹介と、
他団体の活動への参加報告です。

10月

15日(水)「地球市民どんたく」実行委員会

26日(日)「ハートフルフェスタ」説明会

31日(金)川辺川勉強会

《賛同》「フィリピン・ミンダナオ石炭火力発電に関する日独・金融機関への要望書(とりまとめ:
FoE-Japan) ※ミンダナオ石炭火力発電所の詳細な情報はWEB サイトをご覧ください。
<http://www.FoEJapan.org/aid/jbic02/minda/index.html>

11月

8日(土)・9日(日)ハートフルフェスタ福岡2003(博多リバレイン)

15日(土)・16日(日)地球市民どんたく2003(ソラリアプラザ)

22日(土)地球市民どんたく2003「広域地域リーダー国際化セミナー」(天神ビル会議室)

22日(土)・23日(日)あすばるフェスタ2003(クローバープラザ)

27日(木)FNA 運営委員会(あすみん)

28日~12月3日 第2回ダム影響住民とその支援者の国際会議(タイ)

《賛同》「サハリンII石油・天然ガス開発事業 第2期工事への融資に関する要望書」(とりまとめ:
FoE-Japan) *今号 巻頭文参照

サハリン開発に関する詳細 <http://www.foejapan.org/aid/jbic02/sakhalin/index.html>

サハリンII事業の概要 <http://www.foejapan.org/aid/jbic02/sakhalin/background.html>

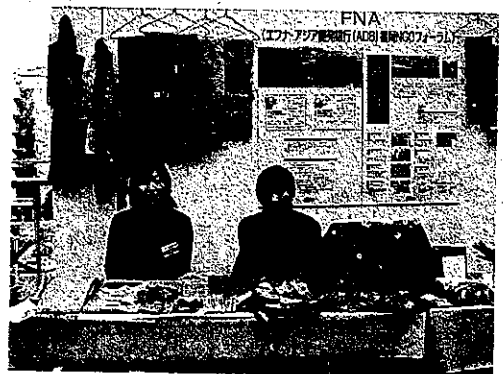
12月

3日(水)ダム開発学習会(あすみん)

17日(水)第24回 財務省・NGO 定期協議(東京)

17日(水)「地球市民どんたく」実行委員会

20日(月)「あすばるフェスタ」反省会



情報・アジア開発銀行総会

2004年度アジア開発銀行（ADB）年次総会は、2004年5月15日～17日、韓国済州島で開催される予定です。NGO参加希望者の事前登録は2004年3月31日までの受付となっています。詳しくは以下のADBのウェブサイトをご覧ください。

総会に関する情報 <http://www.adb.org/AnnualMeeting/2004/default.asp>

事前登録について http://www.adb.org/AnnualMeeting/2004/participation_ngos.asp

情報・ダニエル・ピアードさん講演会

1998年にFNAがお招きしたダニエル・ピアードさんの講演会が熊本で行われます。（残念ながら今回は来福の予定はありません。）

シンポジウム「日本初のダム撤去がもたらすものは」

日時：平成16年3月25日（木）午後7時 会場：八代市厚生会館 資料代：1000円

講演：ダニエル・ピアード、デビッド・ウェグナー

パネルディスカッション：コーディネイター 村上哲生

主催：美しい球磨川を守る市民の会

問合せ先：出水晃（32-2261）、つる詳子（32-7759）

本のご紹介

『グローバリゼーションと発展途上国』

吾郷 健二著 コモンズ 2003年 3500円+税

現行のグローバリゼーションは歴史的必然ではない。国際金融システムの改革論は危機調整コストを途上国に転嫁するものである。・・・破綻した経済思想にかわるオルターナティブ・モデルとは？

第I部 WTO体制と発展途上国

第1章 WTO体制と発展途上国—南北問題観の歴史的転換

第2章 ドーハの意味—WTO第4回閣僚会議

第II部 ネオリベラル改革とラテンアメリカ

第3章 債務危機・通貨危機とラテンアメリカ

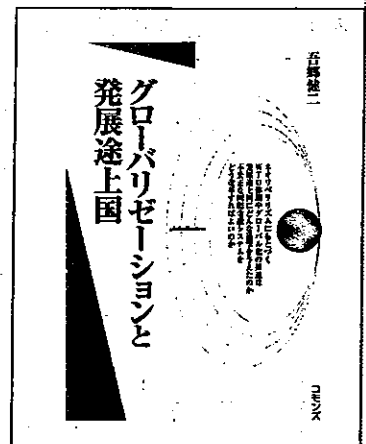
第4章 経済社会開発モデルとしてのネオリベリズムの意味

第III部 国際金融システムと発展途上国の通貨危機

第5章 国際金融システム改革論の行方

第6章 資本移動の規制論

第7章 開発金融と投機的資本—いわゆるトービン税をめぐる



ニュースちょっと読み

ADB に関するものを中心に情報を集めました。詳細についてはそれぞれの連絡先まで。

- ・「アジア開発銀行情報公開政策及び情報政策改定への提言 日本語概要版 2003 年 11 月 14 日 (12/11 メコン・ウオッチML) —メコン・ウオッチ <http://www.mekongwatch.org/>
- ・「フリーフィンギングペーパー：(2003 年 10 月発行) アジア開発銀行のアカウントビリティとチャシューマ・プロジェクトにおけるインスペクション」(10/17ODA—ML)
—JACSES <http://www.jacses.org/sdap/chashma/chashma-bps.pdf>
- ・「米が「反テロ資金」拠出=アジア開銀に 5 億 9 0 0 0 万円」(10/21 MDBs-update)
- ・「ADB が債券市場で援助金」(10/31 MDBs-update)
- ・「アジア開発銀行 アフガンなどへの経済支援で会議」(11/14 MDBs-update)
—JACSES <http://www.jacses.org>
- ・「JICA 環境ガイドライン施行、異議申立手続要綱施行」(10/1 ODA—ML) —JICA
<http://www.jbic.go.jp/autocontents/japanese/news/2003/000092/index.htm>
- ・「JICA 環境社会配慮ガイドライン公聴会」(11/29ODA—ML)
—JICA <http://www.jica.go.jp/event/031128.html>
- ・「タイ・パクムンダム反対運動ミニ報告」(11/9 nishi-jubilee ML)
—ジュビリー九州 <http://jubilee.npgo.jp>
- ・「フィリピン・サンロケダム：地元での抗議活動」(11/15ODA—ML)
 - ・ FoE による関連記事 (2003 年 11 月 14 日)
<http://www.FoEJapan.org/aid/jbic02/sr/press/20031114.html>
 - ・現地 NGO によるプレス・リリース (和訳) (2003 年 11 月 13 日)
<http://www.FoEJapan.org/aid/jbic02/sr/press/20031113.html>
 - ・地元サנסタ・バギオ紙による関連記事 (和訳) (2003 年 11 月 14 日)
<http://www.FoEJapan.org/aid/jbic02/sr/news/20031114.html>
- ・「フィリピン・サンロケダム灌漑部門 地元農民団体が提言を提出」(12/9ODA—ML)
<http://www.FoEJapan.org/aid/jbic02/sr/letter/20031208.html>
- ・「コトバンジャン・ダム裁判第 5 回公判と情報公開運動」(12/8ODA—ML)
http://web.kyoto-inet.or.jp/people/ka1484zu/campaign/campaign_index.html#disclosure
- ・「鯨に悪影響、融資やめて サハリン 2 で環境保護団体」(12/2 MDBs-update)
- ・「日本政府が地質探査支援へ ロシア・東シベリア油田」(12/16 MDBs-update)
—JACSES <http://www.jacses.org>

いっしょに活動しませんか？

FNA への入会のご案内

FNA (アジア開発銀行 (ADB) 福岡 NGO フォーラム) では会員を募集しています。年会費は以下の通りです。(いずれも1口)

・正会員 5000 円 ・学生会員 3000 円 ・購読会員 2000 円

入会金は不要です。入会を希望される方は、氏名・住所・連絡先(電話・ファクス・Eメールアドレスなど)を事務局にご連絡ください。年会費は現金書留での郵送か、または次の口座に振込をお願いします。

郵便振替の場合：01720-9-99885「ADB 福岡 NGO フォーラム」

銀行振込の場合：西日本銀行 天神北支店 普通口座 0369343「ADB 福岡 NGO フォーラム 楠原圭子」

FNA の活動への参加呼びかけ

FNA では様々な企画への参加者とともに、運営にたずさわってくださるボランティアを募集しています。イベントの企画・運営、フリーマーケットでの物品販売、ニュース・レターの編集・発行、翻訳、運営委員会への出席などの活動を通して、FNA だけではなく日本やアジアの NGO 最新動向もわかります。ぜひどうぞ！

お申し込み・お問い合わせ・ご連絡は下記までお願いします。

〒810-0041 福岡市中央区大名2-6-46 福岡市立青年センター5階

福岡市NPO・ボランティア交流センター(愛称あすみん) 気付 連絡ボックスNo.24 FNA 行

(郵便物には必ず「連絡ボックスNo.24」を明記してください。)

電話・ファクス：092-920-1873 (電話は留守番電話になっています。ご用件を録音してください)

Eメール fna@minos.ocn.ne.jp ホームページ <http://www.geocities.co.jp/WallStreet/2253>

「オープン・アカウント」とは？

英語の「アカウント」には二つの意味があって、ひとつは「銀行口座」ですがもう一つは「アカウントビリティ」の「アカウント」で、「説明」です。従って「オープン・アカウント」は「開設された口座」と「オープンな説明」とのかけことばになっています。

私たちが ADB という公的金融機関を相手にアカウントビリティを求めていく目的で FNA の活動を始めたことから、ニュース・レターにこの名称を使うことになりました。ADB が口座開設(お金)にだけ腐心するのではなく、説明責任を果たす機関になってほしいと思います。

オープン・アカウント第13号(発行：2003年12月25日)

編集発行責任：FNA (アジア開発銀行 (ADB) 福岡 NGO フォーラム) 運営委員会

編集：楠原圭子